

表-3. 産卵柴中の主な生物

魚類	ハゼ類 卵塊	RR	軟体類	二枚貝類	+	甲殻類	イセエビ ガザミ	R	被囊類	ホヤ類 シロボヤ	CC
----	-----------	----	-----	------	---	-----	-------------	---	-----	-------------	----

(注) CC…非常に多い C…多い +…普通 R…少ない RR…稀

4. 卵嚢内稚仔の發育状況

アオリイカの発生と稚仔の成長については、^{1,2)} 崔、大島 (1961) に準じた。

卵嚢内稚仔の發育状況について、本土の場合には、産卵後21日~22日目には孵化直前の段階にあるが、塩屋湾内で産卵した卵嚢の發育状況は13日~15日目には孵化直前の段階にあり発生速度が本土に比べ約5日~1週間も早いことが分かった。

この時期における卵内發育状況は、胚体は眼が黒色となり全身に黄、赤茶または赤褐色の色素胞が發達する。外套も多少不透明さを増してくる。また、孵化直前の卵嚢の大きさは、横径が19mm~20mmで、卵嚢長は(1卵嚢における卵数が3個体の場合)90mm~100mm前後で孵化が行なわれる。

孵化はほとんど卵嚢の頂点から孵化するようで(中には卵塊附近からも見られる)孵化行動はいっせいには行なわれないようである。

5. 稚仔の成長と歩留

(1) 成長について

アオリイカの孵化稚仔の大きさは図-4に示される通りである。

飼育稚仔の成長については、図-5に示されるように、10月に孵化した稚仔は1月20日現在で、月平均3~4cmの成長が見られることから、出荷は6ヶ月以内で、大きさは、外套長15~16cm体重350g~400gの頃に商品として出荷が予想される。また、出荷回数は水試³³⁾(1968)の夏場の飼育結果と今回の冬場の飼育状況などから判断すれば、年2回の出荷が考えられるが、最終的な結果については、飼育終了後に報告したい。

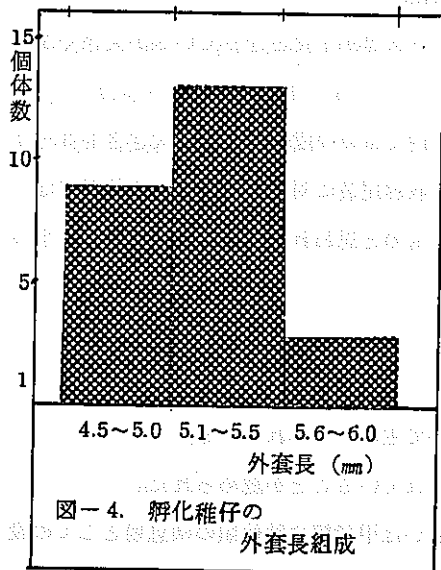


図-4. 孵化稚仔の外套長組成

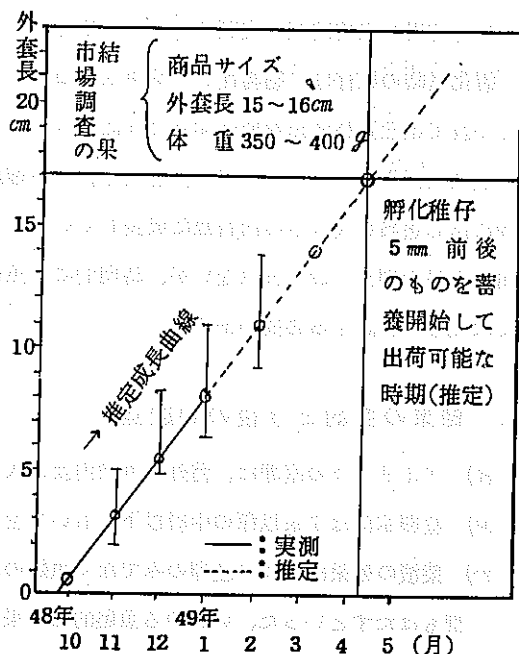


図-5. アオリイカ稚仔の成長